新福祉会館建設問題

高齢者・障害者のための機能を復活

議会からの要望が実現

小金井で元気に！ 小金井を元気に！

五十嵐京子 通信 第48号

小金井市議会議員

2018年4月発行 五十嵐京子を支援する会

これまで通信において何度か福祉会館の問題を取り上げてきました。稲葉前市長時代には第二庁舎北駐車場に新福祉会館を建設する計画を立て、旧福祉会館内の機能を基礎にシルバー人材センターの事務局を入れることを考えていましたが、西岡真一郎市長は高齢者・障害者のための機能を大幅に排除し、子育てに特化するという大幅な変更をしたため、議会でも議論がされてきました。そこで、議会の多くの意見を取りまとめ、昨年12月に市長に要望したことが通り、排除されてきたシルバー人材センターや悠々クラブ事務局、障害者の福祉共同作業所などが復活することになり、2月に市議会全員協議会にて報告されました。

■庁舎等の設計予算が計上されず

さらに3月議会では財政計画も示され、庁舎等も含め約95億円の事業となり57億円は起債（借金）になります。何よりも問題なのは、新年度当初予算に計上すべき基本設計予算が計上されていなかったことです。自治体の予算は一年分の予算を載せるのが基本で、補正予算は補助的な意味合いの措置です。非常に重要な基本となる政策の予算を当初予算に計上しないのは異常な措置と言わざるを得ません。

■西岡市長の2年間で人件費が増加

さらに大きな課題は人件費の問題。長い間小金井の大きな課題であった市職員の人件費改善のため、稲葉前市長は毎年職員数の減、人件費の減を進めてきました。「真の行革」を訴え当選した西岡市長になって2年の折り返し地点が過ぎましたが、市長就任間もなく地域手当の2％増を決め、就任後1か月のうちに上げました。これにより金額にして年間約4千万円余の増加につながり、3年かけて10％から15％へと5％増により1億3千万円余の増となりました。更に、人数に関しても任期付きとはいえ正規職員は増加しています。

3月議会では、西岡市長は昨年の東京都人事委員会勧告により期末勤勉手当の0・2か月増の提案をしました。しかし、人件費の総額増加傾向と定数削減が進んでいないことを理由に反対をする会派が多く、議案は否決となりました。人件費は改善に時間を要する経費ですので、常に増加に対しては目を凝らしてみていく必要があります。

▲小金井市制60周年記念で市民公募により決まったシンボルマーク

■グランドデザインなどの予算を削除の方向へ

また西岡市長は公約であった小金井の未来のグランドデザインを作るための費用約500万円を計上しました。小金井の30年後の未来をデザインするというものですが、その構想はあまりにも漠然としており、ただ市民参加で実施するということしか具体的な説明はなく、多くの会派からも必要性を疑問視する声が出ました。

平成30年度一般会計予算に関しては議会から組み替え動議が提案され、グランドデザインや人件費等の削除が可決されたため、市長はこの可決を重く見て6月議会で処理することを明言、それを持って予算原案が可決となりました。

■社会福祉委員（民生委員等）の報酬の誤支給問題

昨年5月発覚、半年間放置

債権放棄は適切だったか？

高齢社会を迎えて、地域で高齢者に寄り添うボランティアをしている民生委員は今や欠かせない存在です。これまで民